

F-5 週休2日制が家庭生活に及ぼす影響(その2) — 方法論 —

静岡大教背の村尾重之 金城学院家政生川浩子 岐阜大教育堀田剛吉
 椙山女学園大家政山口又子 金城学院大家政今井光映

目的 家庭生活における構造は、時間的構造と空間的構造においてみることができ
 る。従って、それらの構成要素の一つが、何らかの理由で変化するとき、家庭の生活
 構造、そして家庭経営のあり方は、変化を余儀なくされざるを得ない。家政的環境の
 変化が、週休2日制による労働時間の質量的変化をもたらすとき、各構成要素にどの
 ような変化が現われるのか、それらを段階的に検証し、未来予測的に考察し、とらに
 家政的環境にフィードバックして相互作用的理解をうかがうのが、目的である。今回は、
 そのための調査目的の方法論、枠組について報告する。

方法 ニつれた研究目的を達成するための各段を目標としてとらえらる。そのため
 の方法として、つぎの3点についての考察が必須とされる。①は、ここでの家政的環境
 の段階的変化をどのよ様なパターンについて考えるべきであるか、②③は、時間的
 構造・空間的構造を対象としてどのように措置すべきであるか、ということである。

結果 これらの点についての結論は、研究報告(その1)の序論における予備調査
 の成果に基づき、つぎのよ様なものとされた。オ1集：完全週休2日制、隔週週休2日
 制、週休1日・土曜半日制、週休1日制の4パターンとする。オ2集：家族週期の親
 子同居期の家族を対象とし、平日・土曜あるいは週休1日目、日曜の生活時間につ
 いて調査する。オ3集：家族形態は核家族・専業主婦・子供2人、夫身令35~49才・年
 収200万~300万前後の家庭。空間的構造における構成諸要素は、総括し生活意識・価値
 観)、家計、家族関係、生活技術(衣食住・健康・家事労働)とする。